

No.624 (改題584号)
2023年
6月28日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ストップ!大軍拡と大增税
市民デモHYOGOが講演会とデモ



憲法共同センターと合同で行った「ストップ大軍拡市民デモ」6月4日、神戸市中央区

岸田政権がなりふり構わず大軍拡戦争への準備にまい進しようとするなか、これに抗する声と運動をあげようと、40を超える市民団体で構成する「こわすな憲法!いのちとくらし市民デモHYOGO」は6月4日、「ストップ大軍拡!市民集会&デモinHYOGO」と銘打った行動を神戸市内で行った。午前第一部は講演会、午後からの第二部が憲法改悪入

午前10時から開かれた講演会には約70人が参加。辺野古の軟弱地盤問題を初めて提起した土木建築家の北上田毅さんが「辺野古から見た沖縄の軍事要塞化」と題して講演した。北上田さんは辺野古新基地建設の現状について、辺野古側の埋め立ては92%まで進んでいるものの大浦湾側はいっさい土地投入ができず進捗率は全体で14%(今年3月末現在)だと報告するとともに、この新基地建設は必ず頓挫するしかないことを、深刻な軟弱地盤の問題、再度の設計変更申請が必要となること、

建設・補修にかかる莫大な費用と時間、さらには大地震・津波の危険性など、その根拠を多面的かつ具体的に説明しながら力説した。また、辺野古弾薬庫の機能強化工事をはじめ、南西諸島で進む自衛隊のミサイル配備計画や日米軍事一体化の問題など沖縄の軍事要塞化の実情についても問題提起した。午後1時からのデモでは、出発前の東遊園地でのミニ集会で関西大学法科大学院教授の木下智史さんがスピーチ。安保3文書の改定に沿って今国会で次々と悪法が可決されていく事態にふれ、「反対論が広がっていない、マスコミも断片的にしか報道せず、批判的な意見はないものとして扱っている。要するに現実主義だ。世の中がそうなっ

いるから仕方ないという論調だ」と指摘。「しかし、現実主義で東アジアの平和は守れるのか。戦争は防げるのか」と反論し、「反対論が広がらないのは、多くの人が心の中で反対だと思っただけで、周囲のことを考えて声に出せていないからではないか。こんな状況では人々に見える形で訴えていくことがとても大事だ」と呼びかけた。この後、首相官邸に送る集会アピールを採択し、集会後は2つの梯団に分かれて三宮センター街を通過してJR元町駅前までデモ行進を行った。

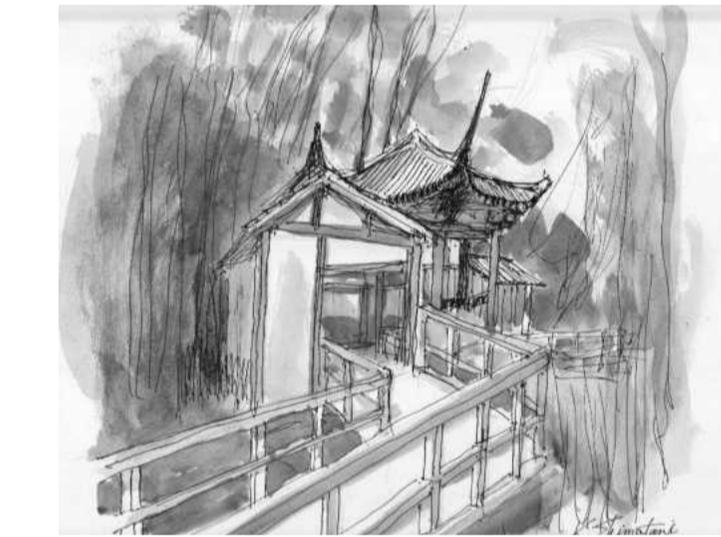


北上田毅さんが沖縄の軍事要塞化などについて報告と問題提起を行った講演会=6月4日、神戸市

連続市民セミナーがスタート
中川智子・前宝塚市長が講演

「王子公園・市民ミーティング」実行委

「王子公園を守るための連続市民セミナー」の第1回が6月10日、神戸市灘区の動物園ホールで開催され、約70人が参加した。「王子公園・市民ミーティング」実行委員会が主催したもので、「住民自治と公園」をテーマに前宝塚市長の中川智子さんが講演した。中川さんは宝塚市長時代、既成概念にとらわれず、就職水河期世代やLGBTQの支援をはじめ、多くの先進的な課題に取り組む、先駆的な成果をあげてきた市長だ。「宝塚ファミリーランド」閉園の経過やそれをめぐる取り組みも含め、住民自治や市民運動に焦点をあて



ひょうご(140)
描き、歩き
北山緑化植物園
(西宮市北山町)

阪急・夙川駅から桜並木の堤を川沿いに北上すること半時間、銀水橋を越えて山懐に入り、山道を登る。3つの池を過ぎると北山緑化植物園に入る。この公園の正面入口は北西に位置する

県道沿いにあるが、逆の方向から園内に入った。すぐに目に飛び込んでくるのが、優雅に屋根が反り上がった中国風のスケッチの建物。紹興酒で知られる中国紹興市と酒の縁で西宮市が友好都市提携していて、その記念として、紹興市にある書家・王羲之ゆかりの庭園を模して「北山墨華亭」「小蘭亭」が造られている。

広い園内では春の桜、秋の紅葉をはじめ約2千種類の四季の植物に出会え

る。緩やかな起伏のある園内の散策路を巡り、花壇や温室を辿る。北の一面に「北山山荘」がある。故人からの寄付を受け、市制60周年を記念して建設された優雅な数寄屋造りの山荘で、北山杉や紅葉が見事な日本庭園があり、この時は緑のみみや石楠花、サツキが見頃であった。山野草の小径もある。帰途、西宮震災記念公園に3年前にできた野坂昭如氏の代表作「火垂るの墓」の文学碑に立ち寄る。戦後29年、世話になった西宮の家族構成をモデルとし、主人公「清太と節子」兄妹の戦争による不条理をこの小説にし、と碑文に記されている。(嶋谷)

た90分にわたる講演で貴重な教訓が伝えられた。講演は、王子公園問題に直結する内容で、1人では変えられないことも仲間がいれば変えられること、また、一旦失ったら取り戻すことができないこと等々、実際の運動から導き出された多くのことを学んだ。講演後の討論では、公募への応募が関西学院大(小林るみ子)



「住民自治と公園」と題して講演する中川智子さん=6月10日、動物園ホール

水脈

過日閉会した通常国会は色々な意味で異常であった。国の基本方針や個人の暮らし方を大きく変えてしま

う重大な内容の法案が、国会で十分な議論をされることなく次々と可決、成立してしまつた。原発の60年超運転を可能にし、原発回帰を図る「東電法案」のGX脱炭素電源法、健康保険法を廃止するマイン法等の改定、武器の開発・輸出を支援し、国有化も可能にする防衛産業強化法、国際的にも批判される改悪入管難民法、意味をなさないLGBT法、そして最終盤に成立した防衛費増額財源確保法...、紙幅が足りない。しかも財源は先送りというおまけまでつく。反対論の広がりや高まりが余りにも弱かった。法案によっては野党の賛成も目立った。そして、国会最終盤に吹いた解散風。大義がなくとも首相自らが「解散権」を弄び、解散風を煽つては野党をけん制、法案の成立を踏つた。浮かび上がるのは、政治の軽さと野党の迫力不足ではないかと思える。現実に基づき真摯な検証もないままに既定路線が数の力で追認され、首相の好き放題がまかり通る。そこに見えるのは、首相の明確な政治信念などではなく、たんなる便宜主義が漂う姿である。総裁の座への意欲とそのための方策だけが見える。

# 米軍Xバンドレーダー基地撤去を 4年ぶりに基地現地集会

6・10  
京丹後市



基地配備決定からちょうど10年が経つ基地のゲート前で約150人が参加して抗議集会＝6月10日

岸田政権による大軍拡、戦争体制づくりと連動し、

## 沖縄のたたかいに学ぶ

### 共同テーブル近畿が集会開く

「共同テーブル近畿」主催の「沖縄戦から28年たたかう人びとに学ぶ」集会では、米軍の基地

が6月11日、大阪市内で開かれた。

被書を全国で告発している明(あきら)有希子さんと沖縄国際大教授の前泊博盛さんが講演した。

「基地のそばで暮らすということ」のテーマで講演した明さんは、娘が通う宜野湾市の緑ヶ丘保育園への米軍機からの部品落下事件(2017年)をきっかけに取り組んでいる学校施設上空などでの飛行禁止を求める闘いについて報告。また、最近問題化している米軍基地周辺の有機フッ素化合物(PFAS)汚染について、「かつての水俣病

と同じことなるのでは」との懸念が示された。

リモートで講演した前泊さんからは「安保3文書と沖縄」をテーマに、変質した日米安保の現状と沖縄のたたかいについて、詳細な報告が行われた。前泊さんは講演の最後に、「得票数25%前後で政権に就いている岸田政権が好き勝手にやっている。これは選挙民主主義の危機である」とことを強調し、「もっと政治に関心をもち政権を監視しよう」と呼びかけた。

参加者からは、「2つの講演を聞いて、自衛隊の『米軍化』だと思った。自衛隊が『軍』になることで、無慈悲に民を押しつける存在になるでは」との感想が寄せられた。

なお、集会の冒頭、4

連帯のあいさつがあった。(鍋島)

## 自治体選挙の経験を交流 アイ女性会議ひょうごが大会



アイ女性会議ひょうごでは2人の会員市議員(芦屋市、神戸市灘区)のうち1人が議席を失い、当選できた会員も厳しい闘いだった。候補者も支持者も共に高齢化するなかでの票読みは、一票減

の最後、近畿各府県からの連帯あいさつや韓国からの連帯メッセージの紹介が行われ、集会後は

その後、近畿各府県からの連帯あいさつや韓国からの連帯メッセージの紹介が行われ、集会後は

アイ女性会議ひょうごは6月4日、神戸市内で第62回定期大会を開いた。午前・午後を通しての全日開催は4年ぶり。

昼食後には会員の都亭アロハさんの落語「動物園」に大笑いし、午後は主に今春の統一自治体選挙を闘った経験を交流した。

ただ、一票増えたというよりは一票減ったというような繰り返し。選挙は日常活動の集約だが、新しい人や若い人がつかめていない現実があった。どうしたら若い人と繋がれるか、日々真剣に考えないといけない切実な課題だ。他所の地域で応援をした会員からは、一方的に不特定多数に訴えるだけではないか、その町の人を何を考えているかを知らないといけない、自分の地域でやるしかない

「異様な国会風景 悪法がとどろんでん方式で次々成立。まるで令和の新政翼賛会？」

岸田政権の国会を軽視し、コケにしたような強引な手法と、それを自民、公明、維新、国民民主が支えている風景は異様としか言いようがない。

維新や国民民主が、金魚のフンのように自民党にくっつき成立させた国民の暮らしと権利、平和を破壊する悪法は、①原発の60年運転法、②健康保険証を廃止するマイナンバー法改定、③武器の開発や輸出を支援する軍産産業強化法(これには立憲も賛成)、④国連が国際法違反だとする入管法の改定、⑤国際感覚と著しくずれているLGBT法制定など。



「基地のそばで暮らすということ」のテーマで講演する明有希子さん＝6月11日、大阪市・PLP会館

「共同テーブル近畿」主催の「沖縄戦から28年たたかう人びとに学ぶ」集会では、米軍の基地

が6月11日、大阪市内で開かれた。

被書を全国で告発している明(あきら)有希子さんと沖縄国際大教授の前泊博盛さんが講演した。

「基地のそばで暮らすということ」のテーマで講演した明さんは、娘が通う宜野湾市の緑ヶ丘保育園への米軍機からの部品落下事件(2017年)をきっかけに取り組んでいる学校施設上空などでの飛行禁止を求める闘いについて報告。また、最近問題化している米軍基地周辺の有機フッ素化合物(PFAS)汚染について、「かつての水俣病

と同じことなるのでは」との懸念が寄せられた。

なお、集会の冒頭、4

連帯のあいさつがあった。(鍋島)

## 新社会党、社民党、共同 テーブル近畿で合同街宣

6・11  
大阪市



山下けいき茨木市議(新社会党近畿ブロック協議会議長)らがマイクを握った＝6月11日、大阪市

共同テーブル近畿の集

に先立ち、社民党と新社会党の両党近畿ブロックで共同テーブル近畿も加わった合同街宣が午前11時から1時間、JR大阪駅前で行われた。

改悪入管法の強行可決直後とあって、街宣では同法案の強行採決への抗議や同法の非人道的、非民主的な内容への根本的な批判が、社民党の大橋裕子参議院議員、新社会党の山下けいき茨木市議、共同テーブル近畿呼びか

この決意が述べられた。また、当選はできなかったが、須磨区の青年候補者が獲得した3600余票をそのままにしていてはもったいない、投票し

てくれた若い人と繋がっていかないと、今後の課題も出された。

大会は、最後に大会宣言「STOP戦争への道」(写真)。(川辺)

## 改憲の動きをウォッチング

戦争への準備も急ピッチで進んだ。沖縄の民意を踏みにじった地对空誘導弾パトリオットPAC3の先島配備は、緊急事態(参院の緊急集会、議員任期延長)をテーマに審議した。

改憲5党派は、緊急集会が論議、緊急事態条項めぐって 衆院憲法審

(中)

# 兵庫県パートユニオンネットワーク 総会とパート・フォーラムを開催

兵庫県パートユニオンネットワークの定期総会とパート・フォーラムが6月10日、中央区文化センターで開かれた。

総会議事では、提案のあった1年間の活動総括、新年度活動方針、新役員などが承認された。

パート・フォーラムでは、最初に各ユニオンや臨職評からの闘争報告があった。伊丹指導員労組からは、不当な雇止め通告を受け、臨職評の仲間の支援や自治労県本部が交渉を重ねた結果、解雇撤回を勝ち取ったとの報告があり、他にも、姫路ユニオン、加西クローバー労組、武庫川ユニオン、尼崎市学校分会、神戸ワーカーズユニオンから闘争報告があった。

記念講演は「非正規労働運動をともに考える」と題して、きょうとユニオンの笠井弘子委員長が講演。笠井さんは、1995年の日経連「新時代の日本の経営」の中の「正社員以外の雇用形態」が示されて以降、「人件費削減」が経営者の台言葉となり、人材ビジネスの伸長と共に、非正規労働が増えられてきた経過を解説。そして、「嘱託」「準社員」「パート」「アルバイト」「アンシエイト」などさまざまな呼び方で細分化され、職場の中の



パート・フォーラムでは各ユニオンや臨職評からの闘争報告や記念講演があった＝6月10日、神戸市

## JAL争議の早期解決を

### 全国統一行動の一環として元町で街宣

「身分」として固定されていることを指摘した。しかし最近、会計年度任用職員など非正規労働問題を扱う報道が増えていくことも紹介。「必要不可欠な仕事を非正規にす

るおかしさが認識され始めた」と付け加え、「人件費」は「人権費」。またともな労働社会をつくるために、さらに声を上げ権利を勝ち取る」と呼びかけた。(石上)

6月のJAL株主総会を前にJAL争議の早期解決をめざす全国統一行動が実施され、その一環として神戸では6月6日夕、JR元町駅前広場で小雨の降るなか街頭宣伝行動が取り組まれた。

JAL被解雇者労働組合(JHU)の鈴木圭子副委員長らが13年前の整理解雇の不当性と「希望者全員の職場復帰」「損害を補償する解決金」の実現を力強く訴えた。あわ

JAL争議は2010年の大晦日にパイロット81人、客室乗務員84人の165人が整理解雇されたことに端を発する。不当解雇撤回を求める裁判は最高裁が原告の申告を棄却。スト権への支配介入をめぐるのは、都労働委員会の不当労働行為救済命令は行政訴訟として高裁勝訴が確定した。解雇後に当時の稲盛和夫JAL会長は記者会見で「経営上、解雇の必要はなかった」と述べている。整理解雇は利益優先のため、もの言う労働者の排除と労働組合の弱体化



小雨の降るなか、JR元町駅前前でJAL争議への支援をアピール＝6月6日、神戸市中央区

## 県内8地区で「まなぶ講演会」 7月3日～20日

### 労働大学まなぶ友の会兵庫県協議会

「第55次まなぶ講演会」を7月3日から開催する。新社会党兵庫県本部、I(アイ)女性会議ひょうご、社青同兵庫地本、ひょうごユニオンが後援。

開催要項は以下の通り。

- 7日(金) 神崎/市川町就業改善センター/細川雅弘
- 10日(月) 神戸市兵庫区/兵庫区文化センター/津野公男
- 11日(火) 東神戸/灘区文化センター/菊地憲之
- 12日(水) 明石/勤労福祉会館/細川雅弘
- 14日(金) 神戸市垂水区/垂水区文化センター/津野公男
- 20日(木) 神戸市北区/北区文化センター/三木平

## 東灘区で戦跡ウォーク

### 神戸空襲を記録する会

6・4

神戸空襲を記録する会は6月4日、第20回戦跡ウォークを東灘区で行った。約50人が参加し、久しぶりに兵庫津ミュージアム名誉館長の田辺真人さんの神戸空襲や東灘区の歴史のお話を聞いた。

戦争当時、神戸の町は軍需工場も多く、港に食料や原料が集中し、活気のある街だったが、学童疎開が始まった1944

年あたりから大変になったこと。1945年3月17日、6月5日の大空襲で焼け野原になった神戸でも、お金があれば東灘区や垂水区で地方に疎開していった人の空き家を借りることができたという。体験者のお話でも、本当の心もじさを味わったのは戦後の混乱の時期だという。

森の稻荷神社の朱鳥居を訪ねた。5月11日の川西航空機甲南製作所攻撃の目印になったものだ。5月5日に撃墜されたB29の飛行士の遺体が浜に漂着し、持っていた写真からそのことが分かった。川西航空機はジュラルミンなど飛行機の材料と製作中の飛行機を疎開させたが、この時に学徒動員者や微用工の人々を休ませれば400人を超える

犠牲者を出さずにすんだのだ。

深江生活文化資料館の戦災・戦争コーナーも見学。本庄墓地では空襲犠牲者慰霊碑、戦没者慰霊碑、忠魂碑(連合国軍がやっていくと、軍国主義だと非難されるからと運動場に埋めたものが戦後、運動場の改修工事の際に掘り出され、墓地に引き取ってもらったもの)や角錐型の戦没者のお墓の話などをした。

本庄中学校で2人の体験者のお話を聞いた。そのお孫さんが「まどま



田辺真人・兵庫津ミュージアム名誉館長の解説を聞くウォーク参加者＝6月4日、神戸市東灘区

**ノーモア尼崎事故**

**生命と安全を守る集会2023**

7月15日(土) 14時

●尼崎市・小田南生涯学習プラザ

●記念講演「地域における鉄道の復権」  
安藤陽さん(埼玉大学名誉教授) など

(主催)ノーモア尼崎事故集実行委員会

## 地域ユニオン あちこちあれこれ

「国民の所得のうち、税や社会保障の負担がどれだけを示す国民負担率が、50%に近づいている。江戸時代の厳しい年貢の取り立てになぞらえて『五公五民』という嘆き節も聞かせる」(6月15日、毎日新聞)

——年金に頼る私たち高齢者にとってはまさに一揆ものだ。

後期高齢者医療保険の窓口負担の改悪に続き、今度は介護保険の改悪がされようとしている。

私たちは昨年11月からプロジェクトチームを立ち上げ、神戸市や厚労省の公表されている資料などを調べていると並行して自治体が発行しているパンフレット

(神戸市の場合は「介護保険のあらまし」)を取寄せ、普及副会長を中心に簡単な冊子を作り6月16日、第1回目の学習会を開催した。普及副会長による資料の説明と質問提起の後、質疑応答では参加者のほとんどが家族の介護を経験している

## 介護保険改悪問題で学習会

「介護保険料は、全国の平均基準額は2000年が2075円であったのが、2022年には6014円と3倍近くになっている。さらには生活保護受給者や年金80万円以下の人も徴収する。」

①全国1788の自治体で全国最低基準額が北海道音威子府村と群馬県草津市の3300円、最高基準額は東京都青ヶ島で9800円と3倍の開きがある。兵庫県内では最低基準額は稲美町の4800円、最高基準額は佐用町の6900円で1.4倍の開きがある。

③今後の動向として、国も自治体(神戸市)も準備金という余剰金を持っていないながら保険料の値上げが計画され、さら

第2回学習会は7月27日(木)。「介護の給付(利用内容)と介護の現状」で講師は菊地真千子さん。第3回は8月29日(火)を予定している。

加納功(熟年者ユニオン事務局長)

# 若者のひろば

昨春秋のことになりませんが、党本部内で発生したハラスメント問題について「党本部執行委員会公式見解」が出されました。

約3年前に起きたこの問題は、県本部職員である私が被害当事者となり、公開のSNSの場で、私個人や党に対する誹謗中傷・名誉棄損の投稿などによるハラスメントを元黨員(当時黨員)から長期にわたり受けた、というのが主な内容です。

党本部執行委員会はハラスメントを確認し、元黨員所属の当該支部と話し合いを続けるなど解決に向けた努力をしていただきましたが、元黨員の離党で解決困難となり、有効な方策が出ないまま時が過ぎていきました。SNS投稿に対して、組織として反論や抗議を含めた態度表明が示されることは一度もなかったため、党内外で事態の共有は進まず、投稿内容はより過激化していき、二次被害も起きていたところでした。

リードしていただきながら、私がこの問題で組織に何よりも求めてきた、①事実の認識、②党内への事態の本質の共有、③そのための県本部執行委員会としての議論と問題への明言、が踏まえられた「公式見解」が出されたことは、誇りに思いま

すし、感謝しているところです。

党本部は公式見解の中で、「一度と同じことを繰り返さないためにも、お互いを認め合う社会を次世代に引き継いでいくためにも、この問題への具体的な取り組みを進めていく。それが、不十分であったと言わねばならない。党の差別意識の克服や人権意識、ジェンダーに対する意識の確立へ向けての、改めての第一歩である。これを怠れば、党に未来はない」と誓い、そのような社会の実現のためにも「私たち黨員ひとりのひとも、目の前に起きる問題に対して『許せない』という態度を腹に持つだけではなく、ぜひ『おかし』と態度表明をしていくのではないかと呼びかけました。

## ハラスメントへの取り組み

今回、自分自身の経験を通して、ハラスメントが何より辛いのは、受けられた被害と同様、周囲との間に温度差ができ、分断が生まれることだと実感しました。私たちの暮らし社会の身近なところで、職場や地域の中で、大したことではないことと思わされてきたり、大したことではないと言われ続けられてきたことで、不当な扱

いを受けても訴えることなく泣き寝入りしたり、訴えたら自分自身がその場から去らなくてはならなくなってしまうことが、数えきれないほどにあったらどうなるか、と思われませんでした。



(岡崎彩子)

## 『日本は本当に戦争に備えるのですか?』

岡野千代、他4人著 / 大月書店 / 1500円+税

本書は、2023年1月19日に「今、リアリズムとは何か—安保三文書を議論する」とのタイトルで、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科が主催して開催されたセミナーの報告である。

主催者の問題意識は、「2022年12月16日、国会の議論もなく、安保三文書(国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画)が閣議決定として突然発表されたこと、ここで市民の声を上げて歯止めを掛けなければ、本日に戦争をする国に、戦争に巻き込まれる国になってしまうという危機感を感じた。三文書の何が問題なのか、その問題点を市民と話し合う機会を作る」との強い危機感に基づいている。本書の帯紙には「岸田軍拡が戦争を招く」ともある。岸田政権は、「日本を取り巻く

## 本棚

## TAR ター

彼女は、過去にショービジネスのグランドスラムと呼ばれるエミー賞、グラミー賞、アカデミー賞、トニー賞のすべてを受賞。現在はベルリン・フィル初の女性常任指揮者(マエストロ)を務めながら作曲家としても精力的に活動している。物語は、そんな音楽界の頂

点に昇り詰めた女性の人生を、小さな不協和音から始まる日常のゆがみを経て、やがては転落していく姿を通して、権力者の失墜に浮かぶ闇を描く。リディア・ター(ケイト・ブランシェット)は、いくつもの有名交響楽団を率いた経歴を持ち、自伝の出版を控える中、翌月にはベルリン・フィル初の楽曲のライブ録音が決まるなど、充実した日々を送っていた。そんな多忙なターを公私ともに支えているのは、オーケストラのコンサートマ



スターでヴァイオリン奏者のシャロンだ。彼女はターの恋人で、彼女のペトラと一緒に育てるパートナーでもある。さらに、ターの秘書フランチェスカも厳格かつ繊密なターの要求に応え、楽団の実

## 虚構の「有事」と真のリスク

(副題)

の報告があるが、ここでは本書の副題にある「虚構の有事と真のリスク」に注目し、第一章「虚構の『台湾有事』」を考察する。専門家の間でも日本への侵略は想定されていない。専門家の見方は「ウクライナ侵攻により、日本も中国などから攻撃されるのでは」との不安があるがそれは考えにくい。中国が台湾に侵攻し、米国と中国の武力衝突が発生した場合、米軍基地のある日本が攻撃を受ける可能性はある」とのこと。台湾には米軍基地がないので、当然、日本国内の米軍基地を使

用することになる。

一方、与党政政治家たちも「台湾有事」を煽っている。「台湾」で大きな問題が起きると、それは「存立危機事態」になり、日米で台湾を防衛しなければならぬ。いつ中国の台湾侵攻が起きてもおかしくない。外交でそれを防ぐことは出来ない」などである。確かに、台湾海峡では中国と米国による戦闘機などによるトラブルの発生が時々伝えられる。しかし、

それを台湾有事に至るとみるのか、本書は次のように中国、台湾そして米国の基本的態度を説明する。中国は「台湾は中国の一部だと考えており、台湾問題を解決し祖国の完全統一を実現することは歴史的任務である。しかし統一の方法は和平統一を「基本方針」としている。1979年元旦に、「台湾同胞に告げる書」を発表し「統一は平和的方法を目指し、台湾人民に損害をもたらさない」ことを表明した。他方、台湾の独立には武力を用いても阻止する選択肢を放棄しないとの立場である。2

務をこなしていた。

そんな才能と実績に裏打ちされたターは、楽団の中で絶大な権力をほしいままにするのだが、完全無欠に見えた彼女の人生が、少しずつしほはじめる。かつてインターンとして指導した若手指揮者が自殺したのだ。巻き込まれることを恐れたターは、自分を守る行動に走るが、それがもとでやがてシャロンやフランチェスカとの関係が悪化し、徐々に彼女の中にある闇が暴走を始めていく。

ターを演じたケイト・ブランシェットは、「苦勞して権力を手にしたとき、次にできることというのは、それを手放すことしかない。権力を手にする

## シネマランド

## 音楽界の権力者の失墜に浮かぶ闇

その一方で、ターの前に才能豊かなチェロ奏者オルガが登場し、その才能と何事にも動じない奔放さでターを魅了していく。

ターを演じたケイト・ブランシェットは、「苦勞して権力を手にしたとき、次にできることというのは、それを手放すことしかない。権力を手にする

次々と変わるシーンに對し、説明があまりないため、やや難解な映画ではあるが、サイコソリラーにして音楽映画でもあり、業界の内幕にも迫っている。

そのどれもが「級品」で、映画評論家の間での評価が高い、通好みの作品という印象である。(直)

監督 トッド・フィード  
2022年ノア  
メリカ / 1580分